

たまいたま 川柳



平成29年(2017年)
9月号 (No.694)

日川協加盟

巻頭言

孤独の発見といふこと

願法みつる

『人は孤独な時間を持たない限り自分を発見しない。人は二つの場面で自分を見つけてるのである。群の中にいる時と自分一人になる時である。』『老人の仕事はこの孤独に耐えることだ。逃げる方法はないのである。』

『神は今あなたたちが面と向かっている人の中に居られるのだ』というのが聖書の解釈である。だから神に会いたかったら、誰でもいい、今、私たちがいつしよに暮らしている人の中にその存在を感じるべきなのだ。』

(曾野綾子「晩年の美学を求めて」から)

孤独を発見することが老人の仕事であり、その為にも自分を取り巻く人の群の存在を知れという。カソリックらしい表現だ。しかし、多くの著書を書かれる彼女自身、老人の悩みの深さを一律では表しきれていないようだ。まるで聖書の膨大な言葉の海に翻弄されているように。

文筆家でもない老いた一川柳人も、まさしく孤独に耐えている。そして他人様と同じ様な悩みの表白句を読みながら、群の存在を実感する。そこにも、神仏らしきものを見出し得たら、幸いと言うべきだろう。老いて惚けると、案外神仏が見えてくるかも知れない。

日日是好

願法みつる

無限とも言える刹那を長く生き

事業繁栄うそぶいている達磨

平等はこんな姿と縄を張り

愛という言葉の裏の我利我欲

笑う目が喜怒哀楽を秘めている

我武者羅に生きて天寿の蟻と猯

犬猫の靈魂信じ牛を食い

非可逆の暦の上で愛を説く

右脚と左はずぐに組みたがる